

第13回 都市計画道路殿町羽田空港線ほか  
道路築造工事に係る河川河口の環境アドバイザー会議

(令和3年7月13日開催)

主な意見、指摘事項と対応について

1. 工事の現況報告

意見・指摘事項	対応
<ul style="list-style-type: none"><li>橋脚下の生態系保持空間に日陰ができはじめたのはいつからか。</li><li>現地確認では、橋の下の日陰部のヨシ群落の生育に特に影響があるとは思えなかった。今後の変化の記録をお願いしたい。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>橋がつながったのが2月なので、日陰ができたのは年末頃だと考えられます</li><li>今後、ヨシ群落を様々な角度からの写真による継続的な記録を行います。</li></ul>

2. 環境対策の現況報告

意見・指摘事項	対応
<p>&lt;干潟の埋戻し&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>約10m単位で凹凸が発生しているが、それは山砂を入れた状態が反映されたものか。</li><li>山砂のシルト分含有率は何パーセントか。</li></ul> <p>&lt;濡すじ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>今後も濡すじのモニタリングを続けていくということか。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>下層部の山砂投入を大型作業船で行っているため凹凸が発生しています。そのため、表土もある程度の凹凸が発生しています。</li><li>分析の結果では2~3%程度です。</li><li>工事内のモニタリング調査は秋が最後になります。</li></ul>

3. 令和3年度春季定期環境モニタリング調査実施状況報告

意見・指摘事項	対応
<p>&lt;水質・水象&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>P4の縦軸の定義がよくわからない。</li><li>P5 R2.8月15日から26日にかけて上層のD0が低下したのは機械トラブルによるものなのか。また、26日から正常なデータに戻ったのはなぜか。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>データ計測頻度が30分に1回なので、そのデータ数を集計したものである。24時間だと24時間×2回/時間で48回ということになります。</li><li>第10回の会議で説明させていただきましたが、この期間はお盆休み期間でメンテナンスが出来ていなかったことが要因であると思われます。</li></ul>
<p>&lt;干潟地形&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>干潟の埋戻しも完了し、今後の干潟形状の変化に注目している。また、底生生物がどの程度回復していくのかも注目していきたいので、今後の調査もよろしくをお願いしたい。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>これまでは、浚渫による生態系保持空間と干渉帯の地形変化に着目して調査をしてきましたが、埋戻しも終わったことから、今後は干潟形状の変化に着目した調査を行っていきたいと思います。</li></ul>

意見・指摘事項	対応
<p>&lt;植物&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>橋梁による日陰の影響が、ヨシ群落への生育状況にどのような影響を与えているのかを注視してほしい。現在のヨシの生育状況をいろんな角度から写真に収めておき、今後どのように変化していくのかを調査した方がよい。</li> <li>ヨシは写真でも生育具合がわかるが、ヨシの下に生息して生物は調査しないとわからない。調査は民間(市民団体等)にお願いできるのであれば、協力してもらおうとよい。今から計画的にどのようなデータを残すか考えること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後もヨシ群落を様々な角度からの写真による継続的な記録を行います。</li> <li>今後、ヨシの下の生物調査の民間(市民団体等)への依頼方法や、どのようなデータを残すのかの検討を行います。</li> </ul>
<p>&lt;鳥類&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>P26の断面図と鳥の通過位置について、橋で埋め尽くされているメッシュを通過しているというのはどう解釈すれば良いのか。単位面積あたりの通過量の見方も教えてほしい。</li> <li>P26の断面図の鳥の通過位置について、橋のストレスを通過しているのは車両へのバードアタックの恐れがあるので結果に盛り込む必要があるかもしれない。</li> <li>P19の結果について、下流側で多数の鳥が滞留している。この結果で橋梁が鳥の飛翔経路を分断していないとは言い切れないのではないか。</li> <li>カモメが上下ストレスを通過しても、彼らは橋をうまくかわす能力をもっており、橋の存在がカモメの通行に影響を与えていないという解釈をいれてもよい。</li> <li>スズカモが激減した点について、考察がないことから考察すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>この近くを通ったという意味です。メッシュが橋で覆われている箇所は下をくぐった等の構造物際の通過をカウントしていません。</li> <li>橋梁上部工側面の足場が撤去された後の調査結果等も含めて、今後考察を検討します。</li> <li>観察調査時、下流側の濡すじ付近で多くの鳥が休憩している様子を捉えており、中州が下流にも多く存在することから概ね妥当ではないと考えます。</li> <li>橋の存在がカモメの通行に影響を与えていない解釈をいれます。</li> <li>スズカモの変化について、今後考察を加えていきます。</li> </ul>
<p>&lt;魚類&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特にご意見なし</li> </ul>	

意見・指摘事項	対応
<p>&lt;底生生物&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地確認で埋戻し部には、まだ底生生物は回復していないことを確認した。この時点の調査は実施するのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本工事での環境調査予定では、秋季の調査の実施を予定しています。</li> </ul>
<p>&lt;底質&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・測線 No. 5+60m が前回と比べて粘土増えており、かなり変化しているが理由は何か。</li> <li>・採取方法のため結果が異なっているとコメントした方がよい。</li> <li>・P. 47 の 6-L-1 のシルトが多く減っているが、理由は何か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前までの測線 No. 5+60m の調査はコアサンプラーを利用していましたが、今回は水深が深く、満潮時に船の上から採泥器を用いて採取を行いました。そのため、採取方法も異なるとともに、採取した位置がずれて誤差が生じた可能性が高いと考えられます。</li> <li>・採取方法の違いによる結果が異なっているという文を加えます。(その後確認、資料内に採取方法の表記あり)</li> <li>・当初はシルトだったが、この近くの用水路からの放水によりシルト分が流されたのが一因だと考えられます。</li> </ul>

### 3. 供用後の事後調査計画（案）

意見・指摘事項	対応
<ul style="list-style-type: none"> <li>・埋戻した干潟部分の生物や地形がどのように変化するかを合わせた設定をする必要があるが、どのように考えているか。</li> <li>・それは工事区域と区外の比較をできるようにするということか。</li> <li>・微細藻類の調査について、微細藻類は1日で変化するので年2回の調査ではやる意義がないのではないか。</li> <li>・微細藻類の調査について、これまでの調査で、有意義なデータが取れていないので不要と考えられる。</li> <li>・調査項目については日常的な観察のなかで観測する方がよいのではないか。</li> <li>・工事の上流箇所は影響を与えていないと考えられるので除外してもいい。今後は埋戻した場所を重要視して、サンプリングのメリハリをつけると良い。</li> <li>・橋梁部の日陰の影響観察について、写真撮影は有効な手段であると考え。今の時点から始めてもらいたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・干潟の部分は15地点で行っていく予定です。</li> <li>・そのように考えています。</li> <li>・アセス時に橋梁による日陰ができることによる影響を把握する目的で追加しました。</li> <li>・ご意見を参考に今後検討していきます。</li> <li>・昨年8月の調査の様に採捕の届け出などが必要となるが、フィールドの提供と協力はできると思う。</li> <li>・ご意見を参考に今後検討していきます。</li> <li>・今の時点から撮影を開始し、写真を用いた継続的な影響観察を行います。</li> </ul>

以上